

開かれたアジアの社会的対話

「アジアの社会的対話研究委員会」(* 主査)

- * 鈴木 宏昌 (早稲田大学教授) 初岡昌一郎 (姫路獨協大学教授)
伊藤 祐禎 (ILO理事) 中島 滋 (連合総合国際局長)
讃井 暢子 (日本経済団体連合会国際労働政策本部長)
廣見 和夫 (中央労働災害防止協会理事長)
山口 高広 (厚生労働省大臣官房国際課海外情報室長補佐)
金 東 元 (高麗大学準教授) 石井 知章 (明治大学専任講師)
井上 定彦 (島根県立大学教授)
-

本書がテーマとした「社会的対話」は、経済的側面と社会的側面のバランスを保った発展になくってはならない枠組みである。本書でも、社会的対話は、ILOの三者構成原則を基底に据えながらも、環境や消費者保護を含んだ市民社会の発展と参加をも視野に入れて論じている。以下下記の構成により記述されている。

- 第1部 第1章から第3章までは、章題の切り口で社会的対話の持つ意味を論じている。
第2部 第4章から第6章までは、労働組合、使用者団体、政府関係それぞれの立場から、「労働組合の社会的対話の取り組み」、「経営者側から見たアジアにおける労使関係」、「アジア諸国における労使関係と今後の展望」について報告されている。
第3部 第7章から第9章までは、中国・韓国・日本のレポートを掲載し、社会的対話実現への課題展望を示している。最新の状況を、その国の歴史的特質と結びつけた論文である。
-

目次

- 第1部 発展するアジアと社会的対話
第1章 アジアの社会的発展と社会的対話
第2章 アジアにおける市民社会改革と社会的対話をめざすネットワーク
第3章 アジアにおけるILOの動き
第2部 社会的対話に向けた政労使のとりくみ
第4章 労働組合の社会的対話へのとりくみ
第5章 経営者側からみたアジアにおける社会的対話と労使関係
第6章 アジア諸国における労使関係と今後の展望
第3部 東アジアにおける社会的対話の可能性
第7章 韓国における政労使委員会の盛衰
第8章 中国におけるコーポラティズムと労働組合の役割
第9章 地域間交流と市民・自治体外交の可能性